

A light gray silhouette of the island of Hokkaido is centered in the upper half of the page. The text 'HoPIC' is overlaid on the map. The 'H' is red, the 'o' is white with a red outline, and 'PIC' is white with a gray outline.

HoPIC

2008

Hokkaido Peripheral Intervention Conference
北海道ペリフェラルインターベンション研究会

Date 2008年4月26日(土) 14:00~

Place 札幌パークホテル

(札幌市中央区南10条西3丁目 TEL:011-511-3131)

◆共催

札幌心・血管治療研究会

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

大塚製薬株式会社

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

東芝メディカルシステムズ株式会社

会	期	2008年4月26日（土）14:00～19:00
会	場	札幌パークホテル （札幌市中央区南10条西3丁目 TEL：011-511-3131）
参 加	費	医師・企業 4,000円 コ・メディカル 2,000円
実 行 委 員 会		佐藤 勝彦（時計台記念病院） 五十嵐慶一（北海道社会保険病院） 廣上 貢（手稲溪仁会病院） 浦澤 一史（時計台記念病院） 藤田 勉（札幌心臓血管クリニック） 山下 武廣（心臓血管センター北海道大野病院） 野崎 洋一（北光記念病院） 五十嵐康己（北海道社会保険病院）
		エコーセミナー 照澤 和仁（札幌東徳洲会病院）
共	催	札幌心・血管治療研究会 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 大塚製薬株式会社 ポストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社 東芝メディカルシステムズ株式会社
エコーセミナー 共	催	東芝メディカルシステムズ株式会社 GE横河メディカルシステム株式会社 株式会社フィリップス エレクトロニクス ジャパン メディカルシステムズ アロカ株式会社
協 賛 ・ 協 力		テルモ株式会社 株式会社メディコン 株式会社カネカメディックス アポット バスキュラー ジャパン株式会社 セント・ジュード・メディカル株式会社 株式会社グッドマン エーザイ株式会社 アステラス製薬株式会社 トーアエイヨー株式会社 武田薬品工業株式会社 田辺三菱製薬株式会社 第一三共株式会社 バイエル薬品株式会社 アストラゼネカ株式会社 株式会社札幌メディカルコーポレーション 株式会社ネオメディックス 株式会社ムトウ 株式会社島津製作所 コンバスメッド インテグレーション株式会社 ディーブイエックス株式会社 メディキット株式会社



札幌心・血管治療研究会
代表幹事
北海道ペリフェラルインターベンション研究会
実行委員長

佐藤 勝彦（時計台記念病院 循環器センター）

第3回北海道ペリフェラルインターベンション研究会（HoPIC）を開催するにあたり、実行委員を代表して一言ご挨拶申し上げます。

近年全国的にも末梢動脈疾患に対するカテーテル治療に関心が深まり、各地で研究会やライブデモンストレーションが開催されるようになりました。そのような中、2年前より、ここ北海道においてもこの分野にフォーカスをおいた研究会を開催してまいります。

今回のメインピックスは、この4月より保健償還となりました頸動脈ステントです。本邦におきましては現在まで脳神経外科医または放射線科医の先生方がこの領域の先駆けとなり、手技の標準化や普及にご尽力されてきた歴史がありましたが、しかしここ数年は、欧米諸国の如く、一部の循環器インターベンション医が脳神経外科医の協力のもと、頸動脈ステント治療に携わるようになってまいりました。今まではあくまでも保険適応外の治療であり、公式には認められていない治療でありました。今年度の診療報酬改定の中で、初めて保険償還されるようになり、そこには厳しい施設基準、治療実施医基準が設けられ、また症例選択におきましても明確な基準が設けられております。今後頸動脈ステントが安全でかつ有効な治療法として本邦に根付くためには、初期の普及段階において互いに技術を切磋琢磨しつつも、その適応基準やデバイス使用方法を厳しく遵守していかなければなりません。

そこで今回は、特に頸動脈ステントにフォーカスをおき、コメンテーターや司会、講師には数名の脳神経外科医の先生にもご参加をお願いしました。ビデオライブでは昨年同様、実際の治療における考え方を討論していただき、その後、教育レクチャーとしてこの分野では数多くの症例をお持ちの脳神経外科医でおられる神戸市立医療センター中央市民病院の坂井信幸先生と、循環器医ではこの分野の先駆者であられる岸和田徳洲会病院の横井良明先生に特別講演をいただくことといたしました。

当研究会が皆様の今後の診療に大いに役立てられますよう、実行委員会一同、心よりお祈り申し上げます。最後になりますが、開催にあたりご尽力ご協力いただきました各方面の皆様、深謝の意を表しましてご挨拶とさせていただきます。

<p>メイン会場 【3Fパークホール】</p>		<p>エコーセミナー会場 【B2Fパークプラザ】</p>	
14:00			
14:05	<p>【Opening Remarks】</p>		
	<p>【ビデオライブ第1部】 「腎動脈&腸骨動脈」</p>		14:30
15:00		<p>エコー実践セミナー 【とことんエコー in HoPIC2008】 第一部</p>	
	<p>【ビデオライブ第2部】 「浅大腿動脈&膝下動脈&頸動脈」</p>		15:40
16:30		<p>【Coffee Break】</p>	16:00
16:45	<p>【一般演題】 私のTips & Tricks</p>	<p>エコー実践セミナー 【とことんエコー in HoPIC2008】 第二部</p>	
17:15			17:10
	<p>【特別講演1】 「頸動脈ステント：循環器医からの提言」</p>		
18:05			
	<p>【特別講演2】 「頸動脈ステント：脳神経外科医からの提言」</p>		
18:55			
19:00	<p>【Closing Remarks】</p>		
<p>【情報交換会】 (B2Fパークプラザ)</p>			

14:00 Opening Remarks 佐藤 勝彦 (時計台記念病院)

14:05 ビデオライブ第1部「腎動脈&腸骨動脈」

座長 浦澤 一史 (時計台記念病院)
横井 良明 (岸和田徳洲会病院)

コメンテーター 五十嵐康己 (北海道社会保険病院)
八巻 多 (旭川医科大学)
岡林 宏明 (北海道循環器病院)
町田 正晴 (苫小牧市立病院)
川嶋 望 (北海道大学病院)
牧口 展子 (国立病院機構帯広病院)
坂井 英世 (市立釧路総合病院)

症例1「腸骨動脈」 野崎 洋一 (北光記念病院)
症例2「腎動脈」 森田 亨 (心臓血管センター北海道大野病院)

15:00 ビデオライブ第2部「浅大腿動脈&膝下動脈&頸動脈」

座長 藤田 勉 (札幌心臓血管クリニック)
佐藤 勝彦 (時計台記念病院)

コメンテーター 古谷 純吾 (北海道社会保険病院)
村重 明宏 (沖縄北部地区医師会病院)
鈴木 孝英 (遠軽厚生病院)
尾崎 威文 (市立千歳市民病院)
中川 雄太 (市立札幌病院)

頸動脈コメンテーター 牛越 聡 (手稲溪仁会病院)
櫻井 寿郎 (森山病院)

症例3「浅大腿動脈」 廣上 貢 (手稲溪仁会病院)
症例4「膝下動脈」 浦澤 一史 (時計台記念病院)
症例5「頸動脈」 野中 雅 (札幌医科大学)

16:30 Coffee Break

- 16:45 一般演題：私のTips & Tricks
 座長 山下 武廣 (心臓血管センター北海道大野病院)
 演題1 「末梢血管CTO病変の手技成功率を向上させるワイヤー選択」
 演者 浦澤 一史 (時計台記念病院)
 演題2 「下肢CTO病変へのインターベンションにおけるTips & Tricks」
 演者 村重 明宏 (沖縄北部地区医師会病院)

- 17:15 特別講演1 「頸動脈ステント：循環器医からの提言」
 座長 佐藤 勝彦 (時計台記念病院)
 講師 横井 良明 (岸和田徳洲会病院)

- 18:05 特別講演2 「頸動脈ステント：脳神経外科医からの提言」
 座長 瓢子 敏夫 (中村記念病院)
 廣上 貢 (手稲溪仁会病院)
 講師 坂井 信幸 (神戸市立医療センター中央市民病院)

- 18:55 Closing Remarks 藤田 勉 (札幌心臓血管クリニック)

- 19:00 情報交換会

エコー実践セミナー【とことんエコー in HoPIC2008】

- 14:30 第1部
 15:40 Coffee Break
 16:00 第2部
 講師 寺澤 史明 (新日鐵室蘭総合病院)
 村上 忠之 (札幌麻生脳神経外科病院)
 喜村 真帆 (時計台記念病院)
 工藤 朋子 (手稲溪仁会病院)
 工藤 良介 (北光記念病院)
 松原 沙織 (心臓血管センター北海道大野病院)
 照澤 和仁 (札幌東徳洲会病院)
 高井 理恵 (旭川医科大学病院)
 実践部位(頸動脈・下肢静脈・下肢動脈・腎動脈・冠動脈)

ビデオライブ第1部「腎動脈&腸骨動脈」

症例1「腸骨動脈」

野崎 洋一 (北光記念病院)

HoPIC2008

症例:70歳代、男性



現病歴：H15年より間歇性跛行。ABI 右 0.52, 左 0.52

H19.12 うっ血性心不全

H20.1.7日. ABI 右0.27、左0.47。

下肢MRAで右総腸骨動脈完全閉塞。

H20.2.14精査加療目的で入院。

CAG：LAD #7 100%, #9 90%, #10 90%

LCX #11 100%, RCA #1 50%

右総腸骨動脈 100%閉塞、右浅大腿動脈90%

左浅大腿動脈 100%閉塞

Risk Factor：DM, Ex smoking

検査所見：ABI 右 0.76, 左 0.63

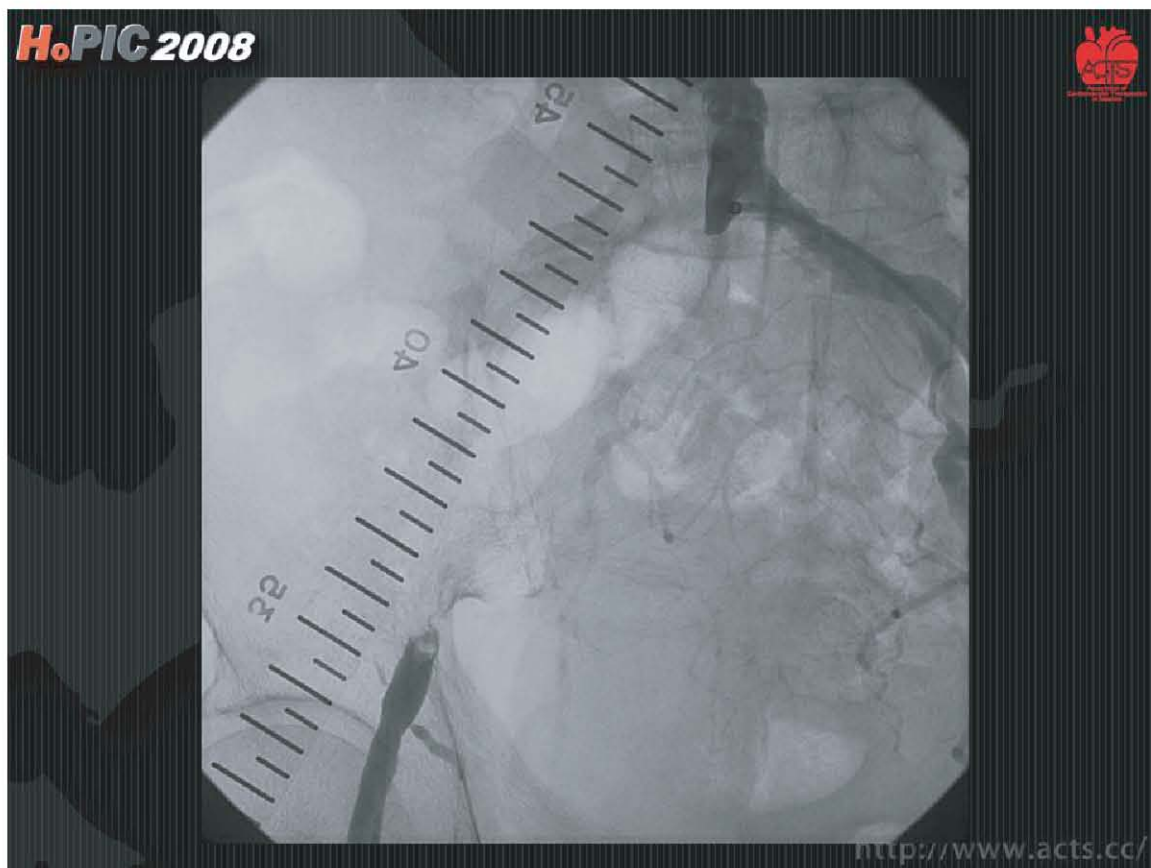
<http://www.acts.cc/>

HoPIC2008

MDCT



<http://www.acts.cc/>



ビデオライブ第1部「腎動脈&腸骨動脈」

症例2「腎動脈」

森田 亨 (心臓血管センター北海道大野病院)

H_oPIC2008



症例:82才 女性

主 訴：血圧高値、腎機能障害進行、再PTRA目的

現病歴：下肢閉塞性動脈硬化症にて1999年4月A-biFバイパス手術、2004年1月左浅大腿動脈ステント留置術、左腎動脈狭窄に対して2004年1月にバルーン拡張術を行っている。経過中右腎動脈狭窄が90%狭窄、PSV2.18m/sへと進行し、2007年7月PTRA (Palmaz stent4/15mm)にて0%に拡張した。6ヵ月後のエコーでPSV2.1m/sと再狭窄所見を認め、再PTRA施行となった。

動脈硬化危険因子

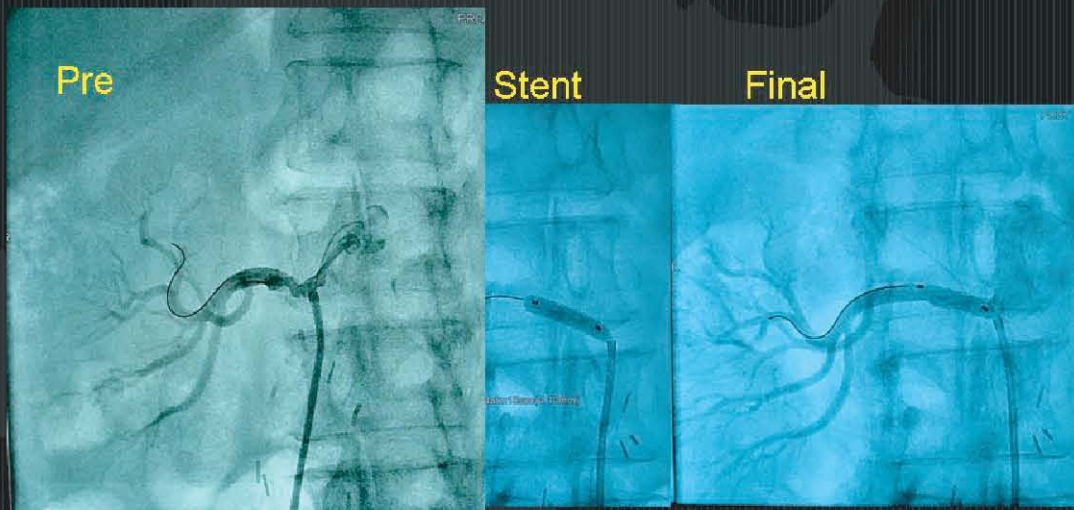
高血圧(+) 高脂血症(-) 糖尿病(+) たばこ(+, ex)

<http://www.acts.cc/>

H_oPIC2008



2007.7 PTRA



<http://www.acts.cc/>

ビデオライブ第2部「浅大腿動脈&膝下動脈&頸動脈」

症例3「浅大腿動脈」

廣上 貢 (手稻溪仁会病院)

HoPIC2008



症 例:70歳、男性

現病歴 : H19.5.31 PPI for lt SFA stenosis

SMART control 7.0X40mm in lt SFA

lt ABI 0.77→1.15

H19.10.28 - cerebral infarction → lt hemiplegia

lt intermittent claudication with lt ABI 0.61

(Fontane II, Rutherford I-3)

H20.1.24 AOG: CTO at Ostium of lt SFA

H20.2.7 unsuccessful PPI for CTO in lt SFA

crossover approach via rt CFA

H20.3.10 re-PPI for CTO for lt SFA

Risk Factor : DM, HTN, HL

ABI rt. 0.85, lt 0.61

<http://www.acts.cc/>

HoPIC2008



MDCT



[acts.cc/](http://www.acts.cc/)

ビデオライブ第2部「浅大腿動脈&膝下動脈&頸動脈」

症例4「膝下動脈」

浦澤 一史 (時計台記念病院)

HoPIC2008



症例 70歳代、男性

現病歴： 平成10年 DMの治療を開始
 平成12年 急性心筋梗塞
 平成14年 冠動脈バイパス術
 平成17年 DM腎症で透析導入
 平成20年 1月、右第1足趾に潰瘍形成。局所治療を行うも治癒が得られず。難治性下肢病変となる。創傷治療を目的に平成20年3月4日に当センターに入院となる。

入院時検査成績：

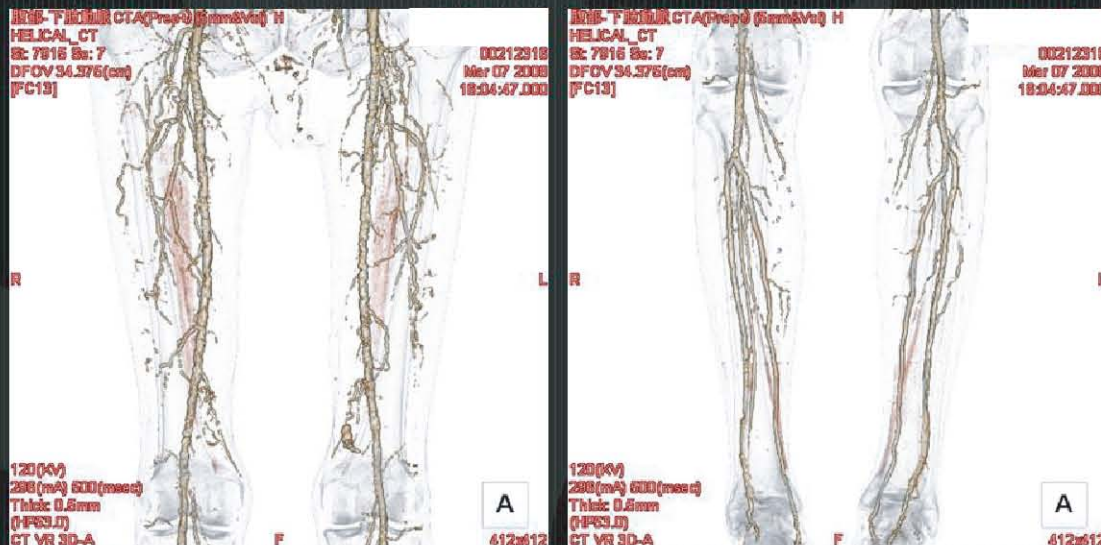
ABI 右 0.72 左 0.90

SPP rt-dorsal 20mmHg, rt-planter 60mmHg cts.cc/

HoPIC2008



MDCT VR-image



<http://www.acts.cc/>

HoPIC2008



MDCT MIP-image

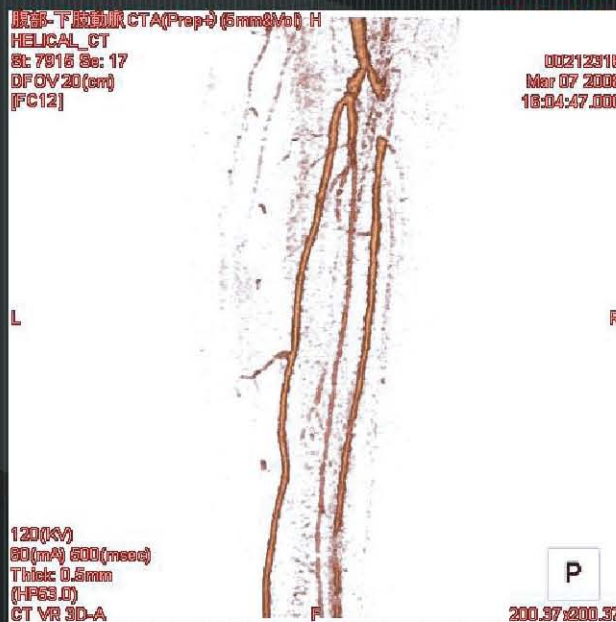


<http://www.acts.cc/>

HoPIC2008



Subtraction MDCT



<http://www.acts.cc/>

ビデオライブ第2部「浅大腿動脈&膝下動脈&頸動脈」

症例5「頸動脈」

野中 雅 (札幌医科大学)

HoPIC2008



症 例:50歳代、男性

現病歴：H11年 脳梗塞にて右片麻痺出現し, 保存的に加療.

H19年6月 脳梗塞再発, 保存的に加療.

H20年2月4日 脳梗塞 再々発.

右片麻痺 (上肢2/5, 下肢4+/5)

H20年3月11日 CASを目的として当科転院.

DSA : 症候性左頸部頸動脈狭窄(65%)

Medication : PLV(75mg), CLZ(200mg)

Risk Factor : DM

Risk Factor for CEA

: severe chronic lung disease

<http://www.acts.cc/>

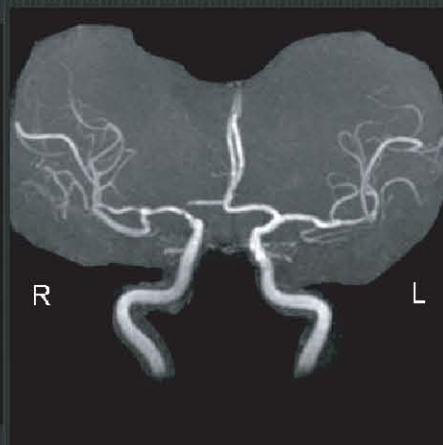
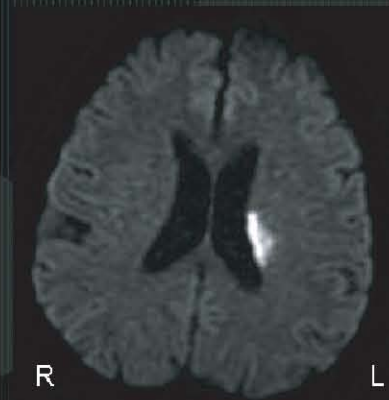
HoPIC2008



MRI-DWI

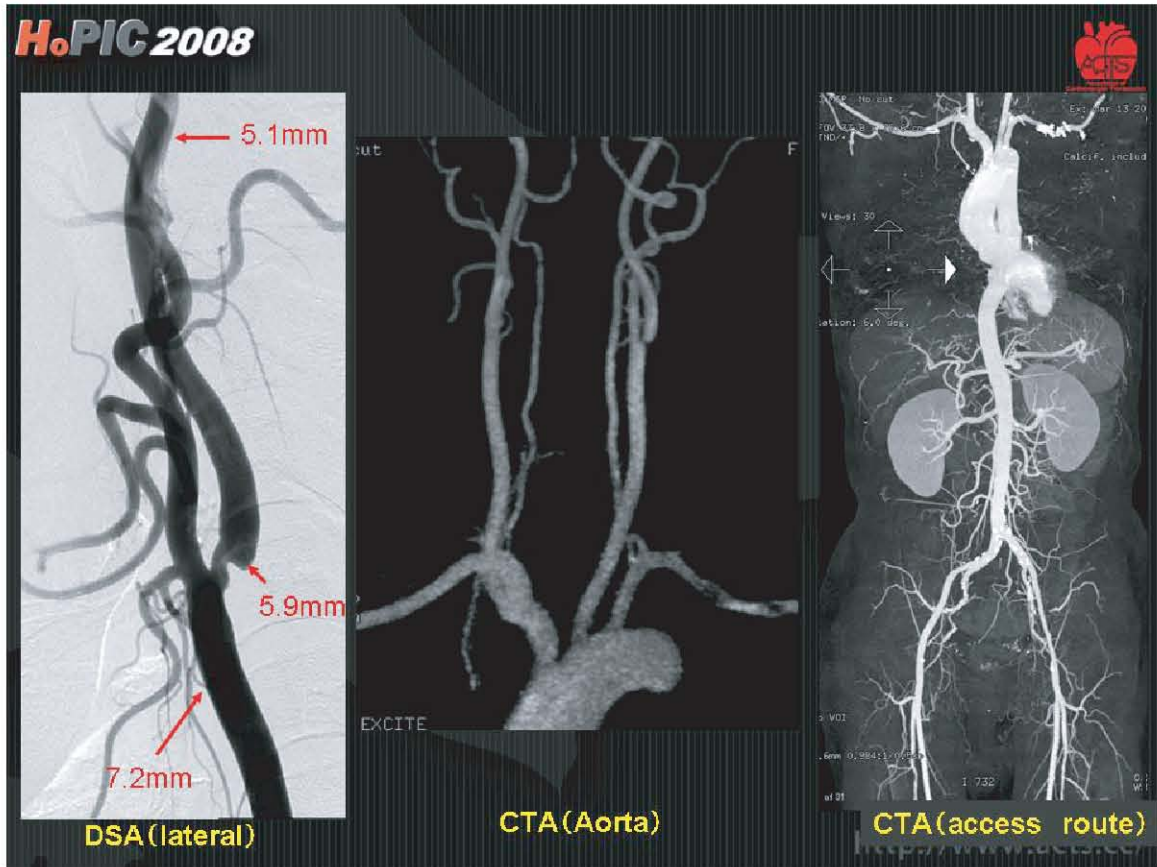
MRA
(intracranial)

3D-CTA



Lt.cervical ICA (lateral)

<http://www.acts.cc/>



Future Meeting

**SAPPORO
LIVE
DEMONSTRATION
COURSE 2008**

*Featured on Complex PCI
&
Peripheral Angioplasty*

Date 2008年9月4日(木)-6日(土)
Place 京王プラザホテル札幌
(札幌市中央区北5条西7丁目 Tel:011-271-0111)

中継病院 北海道社会保険病院
北光記念病院
時計台記念病院



Association of Cardiovascular Therapeutics in Sapporo
札幌心・血管治療研究会
<http://www.acts.cc/>

〒065-0013 札幌市東区北13条東5丁目1-2-103
TEL 011-731-1811 FAX 011-731-1812